

プロジェクト

PROJECT T

Challengers

江の島丸の挑戦者たち

江の島丸コラム「プロジェクトT 江の島丸の挑戦者たち」

神奈川県を代表する農林水産物や加工品を認定する「かながわブランド」に仲間入りした「相模のとらふぐ」。700グラム未満は放流という資源管理などにより、一定の漁獲量を確保できるようになった。水産技術センターは生態調査を推進するため、漁業調査指導船「江の島丸」を用いて、とらふぐの底はえ縄調査に初めて挑む。（Tはとらふぐの頭文字です）

はえ縄漁法

はえ縄漁法とは、1本の幹縄（みきなわ）に数百本の針が付いた枝縄（えだなわ）を付けて魚を捕る漁法です。（図1）

本県のとらふぐ漁業

県内で種苗放流が始まった平成16年頃からとらふぐが増えはじめ、現在は多くの漁業者が「浮きはえ縄漁業」で漁獲しています。

調査予定

とらふぐは海底に生息することが多く、仕掛けを沈める「底はえ縄漁法」を試します。江の島丸にとって初めての調査で、令和4年9月に第一回目を実施する予定です。

仕掛けの作成

船員はとらふぐ漁に関する論文を見たり、他県漁業者や担当研究員と様々な打ち合わせを繰り返して、仕掛けを決定しました。限られた予算を有効に活用するため、マグロはえ縄調査やギス調査で使用した仕掛けを、とらふぐ用に作り替える作業を現在行っています。幹縄は数キロにおよび、取り付ける針も数百本あるので、かなりの時間がかかりますが、荒天で出航しない日など、通常業務の合間に作成中です。

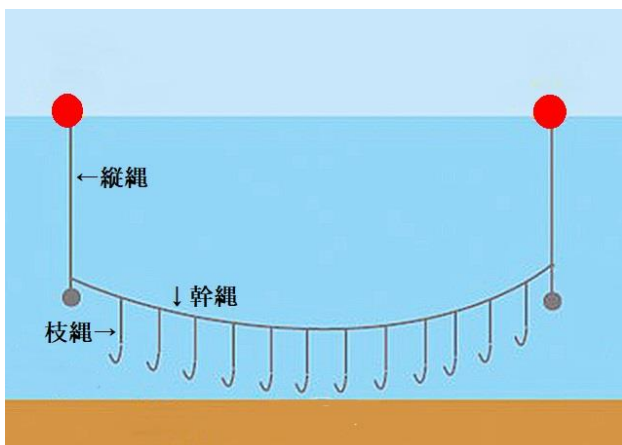
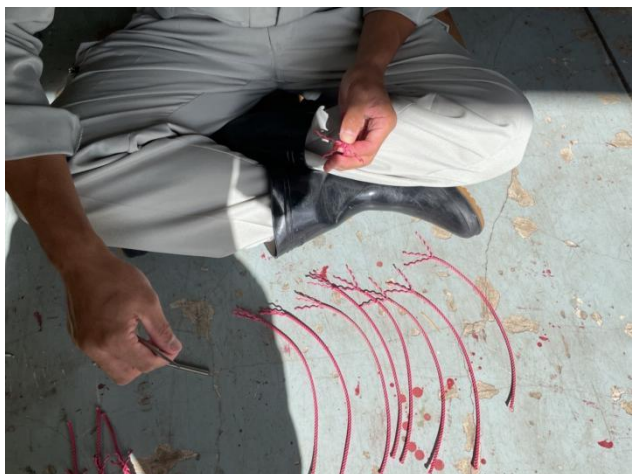


図1



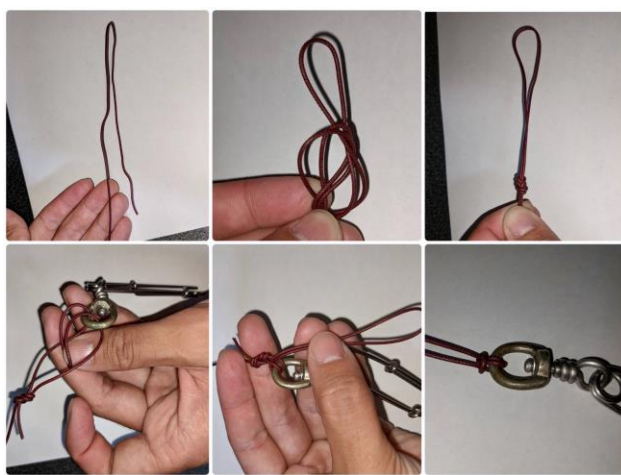
縦縄の製作



枝縄を幹縄に取り付ける箇所の部分。編み込んで輪を作製しています。



上で作製した輪を幹縄に編み込んだ状況



漁具は縛り方も統一されます



プレッシャーで押し潰されそう・・・と言うトラフグ担当の加藤研究員です。 T～



結果はこうご期待

つづく